

池袋の立教大学に全国の教育・医療・保健関係者200名余り参集... 《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》 ～ヘルスケア領域におけるリアルワールドデータ利活用の展望～



北海道から九州まで医療・教育・保健・保険業界など多岐にわたる参加者を迎え



ヘルスデータサイエンス最前線の研究・実践に携わる講師の先生方がそろい踏み

平成30年4月14日（土）午後1時より午後5時まで、東京・池袋にある立教大学池袋キャンパスに全国から200名余りを迎え、一般社団法人ヘルスデータサイエンティスト協会主催《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》～ヘルスケア領域におけるリアルワールドデータ利活用の展望～が開催されました。

ITヘルスケア学会、日本統計学会統計教育分科会、統計数理研究所医療健康データ科学研究センター、株式会社ウオームハーツ、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社タクミインフォメーションテクノロジー、株式会社日本医療データセンター、株式会社日本科学技術研修所、株式会社分子生理化学研究所、スリーワンシステムズ株式会社の後援で開催されました。

ヘルスデータサイエンティスト協会の近藤副理事長の開会挨拶の後、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科の山内教授による特別講演「ヘルスデータサイエンティストに求められる視点ーヘルスサービスの改善・創出のためにー」、第1部はヘルスデータアナリティクス事例報告として①電子カルテデータ活用事例、②レセプトデータ活用事例、③問診データ・電子カルテデータ活用事例、次に特別講演Ⅱ「医療機器と福祉機器の臨床評価とは何か？治験からリアルワールドエビデンスへHAL*₁などサイバニクスをめぐってー」をテーマに国立病院機構新潟病院の中島院長、第2部はヘルスデータアナリティクス事例報告として①ヘルスデータサイエンティスト専門職能、②活動量計によるログデータ分析事例の発表があり、午後5時過ぎ終了しました。

*₁HAL：Hybrid assistive limb

《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》の模様

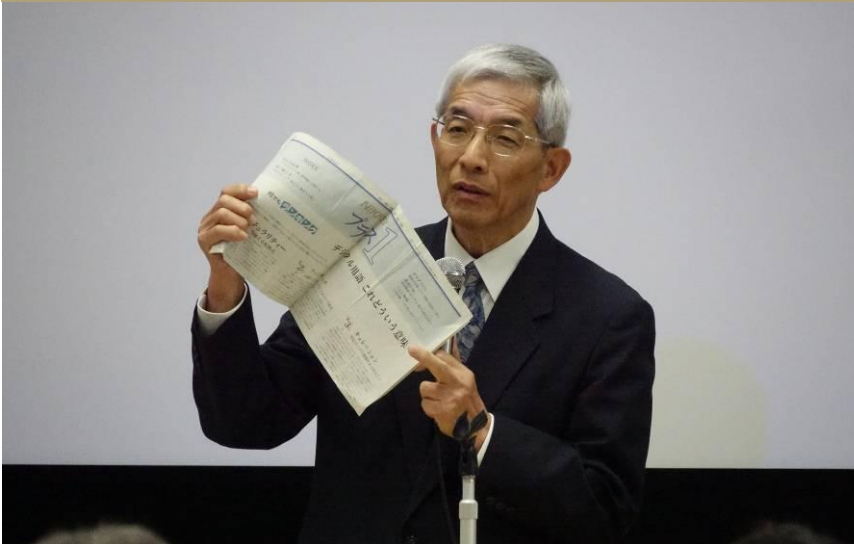
《オリエンテーション》……立教大学社会情報教育研究センター 丹野先生



開会に先立ち主催者ヘルスデータサイエンティスト協会の専務理事で立教大学社会情報教育研究センターの丹野先生が会場の説明、非常時対応などオリエンテーションを行いました。

また《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》の開催趣旨などを説明し、研究会がスタートしました。

《開会挨拶》ヘルスデータサイエンティスト協会の近藤副理事長



《開会の挨拶》はヘルスデータサイエンティスト協会の近藤副理事長、最近、カタカナ英語が氾濫し、理解しにくいと当日の日本経済新聞“プラス1”の記事を示し、ヘルスデータサイエンティスト協会は私たちの健康に貢献する活動をと説明、来場の多数の参加に謝意を表すと共に熱心な議論を期待すると開会挨拶を行いました。

《特別講演》Ⅰ & 《ヘルスデータアナリティクス事例報告》第1部



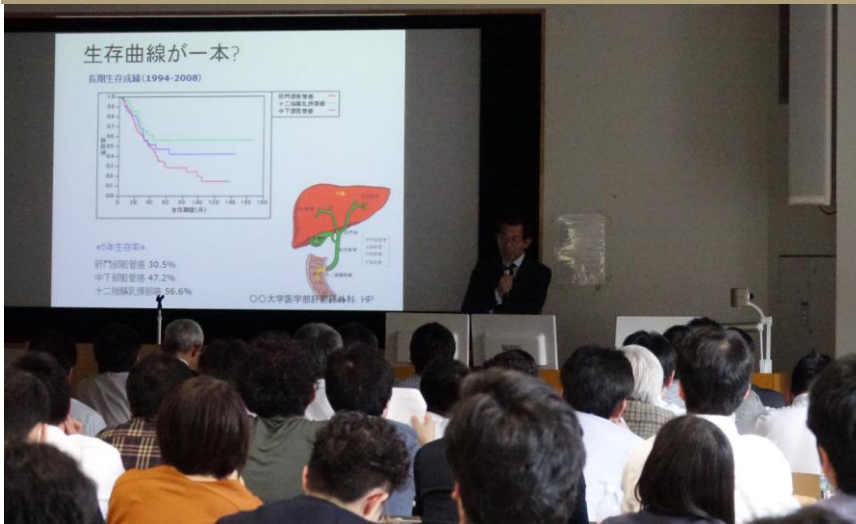
《特別講演》は慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授の山内先生にご登壇頂きました。



《ヘルスデータアナリティクス事例報告》第1部は、①国立病院機構東京医療センター臨床疫学研究室、済生会東神奈川リハビリテーション病院リハビリテーションセンターの古田氏、②慶應義塾大学SFC研究所の西村氏、③慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科の内川氏の3氏が発表を行いました。

《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》の様様

《特別講演》Ⅰ 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 教授 山内先生



「ヘルスデータサイエンティストに求められる視点、ヘルスサービスの改善・創出のために」をテーマにご講演の山内先生、医療、介護、健康増進の領域で、個々のニーズに対応したデータの活用について話を頂きました。

医療側に見られる傾向を3点指摘し、柔軟にデータを見る目を持ち、品質管理学やマーケティングの分野でのアプローチ法を取り入れる必要性を強調しました。



特性要因図等を示し...

《事例報告》第1部(1) 国立病院機構東京医療センター臨床疫学研究室 古田氏



第2部《ヘルスデータアナリティクス事例報告》の最初は古田氏が登壇、「健康状態アウトカムの推移モデルの分析～患者状態の異質性に着目した潜在構造モデルの構築と活用～」をテーマに講演しました。

電子カルテデータの二次活用を可能にし、入院中の患者の健康状態データによる患者の類型化と推移分析により有益な介入ポイントを見つけだしました。近年注目されている混合分布モデルである潜在クラス分析を応用した推移分析を試行し効果を上げた事例でした。

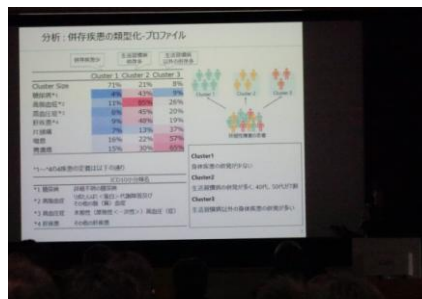


《事例報告》第1部(2)慶應義塾大学SFC研究所 西村氏

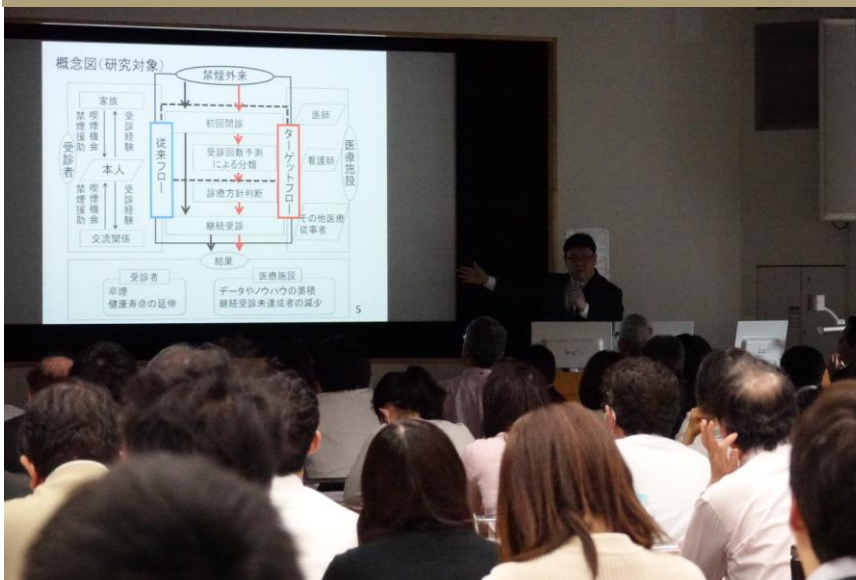


《事例報告》の2例目は「健保レセプトデータベースに基づく双極性障害患者の併存疾患及び薬剤処方特性類型化とその活用～潜在クラスモデルの構築～」をテーマに発表しました。

健保レセプトデータ（ビッグデータ）から、併存疾患モデルと薬剤処方モデルの2つの潜在クラスモデルを作成し、この2つの類型化と投薬状況との関連から、継続投薬治療の特徴が示唆された事例でした。

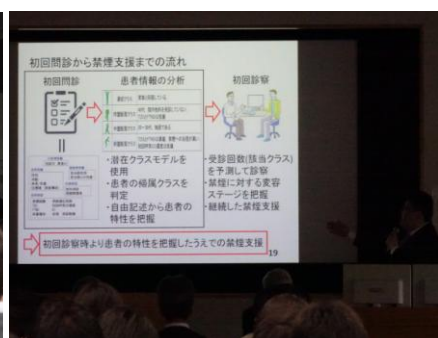


《事例報告》第1部(3)慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 内川氏



《事例報告》の3例目は「禁煙外来における問診票・電子カルテ等患者情報データを用いた継続受診回数予測と受診時の禁煙支援」をテーマに事例を発表しました。

初回問診から禁煙支援までの流れを分析し、患者の特性を把握した上で、患者に合った禁煙指導を行うことで従来とは違い、確実に禁煙を実現できるよう支援することが可能になり、情報収集による地域特性などの反映やヘルスデータ活用を提案する事例を紹介しました。



《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》の模様

《特別講演》II & 《ヘルスデータアナリティクス事例報告》第2部



《特別講演》IIは国立病院機構新潟病院院長の中島先生にご登壇頂きました。



《ヘルスデータアナリティクス事例報告》第2部は、①立教大学社会情報教育研究センターの丹野先生、②統計数理研究所の野村先生の2氏が発表を行いました。



後半は慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授の渡辺先生が司会を行いました。

《特別講演》II 国立病院機構新潟病院院長 中島先生



《特別講演》IIは新潟病院院長の中島先生に「医療機器と福祉機器の臨床評価とは何か？治験からリアルワールドエビデンスへHALなどサイバニクスをめぐって」のお話を頂きました。

前半はヘルスケア分野のRWE (Real World Evidence) の本来の目的、及びRWデータとRCTデータの位置付けについての説明、そして臨床試験の歴史についての概説でした。

後半はサイボーグ型ロボット HAL (Hybrid assistive limb) の紹介として歩行運動治療効果を動画で紹介頂き、医療機器を患者の視点から評価する PRO (Patient Reported Outcome) の必要性についてお話し頂きました。



左はリハビリテーションを受ける患者さんのサイボーグ型ロボットによる歩行運動治療の効果を紹介しました。



右は患者の動かない手にセンサーを付け、データ収集する様子です。



《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》の模様

《事例報告》第2部(1)立教大学社会情報教育研究センター 丹野先生

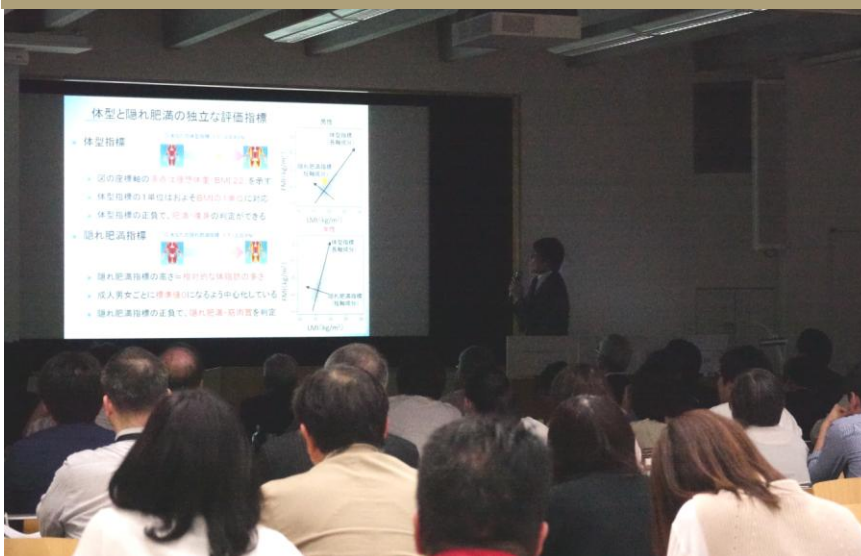


《事例報告》第2部の一人目は主催者で会場提供元でもある立教大学の丹野先生が「患者の主観的評価（日本語版DRS（Decision Regret Scale）の統計解析手法と今後のHDS（Health Data Scientist）について」をテーマに発表を行いました。

前半は丹野先生の主要研究テーマ「患者の意思決定評価尺度の日本語版DRS」、後半は「今後のHDSについて」報告が行われました。

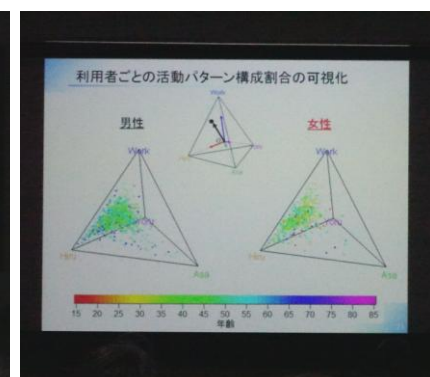
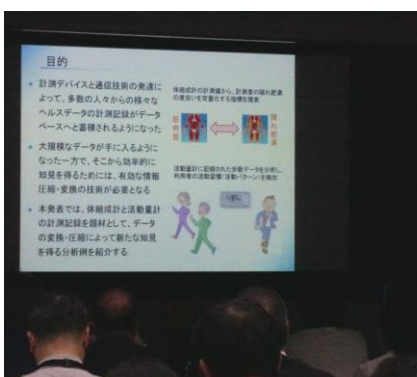


《事例報告》第2部(2)統計数理研究所 野村先生



最後は統計数理研究所の野村先生「主成分分析と潜在トピック分析を用いたヘルスケアデータマイニング」をテーマに報告頂きました。

世の中、ウェアラブルデバイスやネットワークの発達で“健康管理のためのデータ収集”が容易になり、日常的に膨大な健康管理データが収集されていますが、その活用のための統計的解析技術が発展途上であり、その実践のための手法として“主成分分析”と“潜在トピック分析”を用いて解釈容易な形に情報圧縮変換した解析例をご紹介します。



《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》の模様

後半の司会……慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授 渡辺先生



事例報告終了後には熱心な質疑応答が展開されました



後半司会は慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授の渡辺先生が行いました。

《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》配布資料



《配布資料》要旨集はじめ、ヘルスデータサイエンティスト協会資料など

《閉会挨拶》………滋賀大学副学長 須江先生



遠路お運び頂いた滋賀大学の須江副学長

午後1時半に始まった《第1回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会》は事前登録できなかった方も来場、200名収容の会場に追加の机や椅子を運び込む盛会となりました。

熱心な質疑応答により、午後5時終了予定が午後5時半過ぎ、“データサイエンス学部”を創設し注目されている滋賀大学の須江副学長が閉会の挨拶に立ち、多数の参加への謝意を表し、無事に閉会となりました。